

資格とは、最低限の知識・技術があるというだけの話

当HP「プロは、無意識に親御さんに悲しさを与えているかも…（「雑学BN」の「福祉・教育・医療関係（IV）」P、2007.04.15.：参照）」を目にしてくれたメル友から次のようなメールが届いた。

【 HP の中にあった「今1歳ぐらいの発達に・・・」という文章がありました、その表現、すごく気になります。

私が相談支援事業に携わるようになった最初の年にある人の相談で保健師さんが、「〇〇さんの知的レベルは〇歳ぐらだから」（この表現は保健師さんから本当によく聞かれるんです・・・）と言ったんです。

その時は本人や家族はいなかったのですが、初めて聞いたときはショックでしたが、家族の方が聞いたとしたらもっとショックだろうと感じました。

人はどんな人でも生きている限り年を重ねて、それまでの色々な経験や環境が人格を作り上げるものだとは私は思っているので「〇歳の知能」という表現だけで片付けられるわけではないと思うのです。

今は、相談のときにその表現をされた時には、それだけじゃないという事をお話するようにしています。

とはいっても、人のふり見て我がふりなおせ。うー・・・とうなりながら自分の行動を振り返ってます。

自分も表現には気をつけなくちゃ・・・(- -;) 】【

次のようにエール・メールを送信した。

【 我々がそう意識せずに使う言葉で、当事者、家族を悲しませているかもしれませんよね。

「保健師」に限らず、資格とはあくまで運転免許証のようなもので、最低限の運転知識・技術があるという証だけで、慎重な運転が出来る人か、無謀な運転をする人かは、免許証を持っているというだけでは分かりませんものね。

でも、免許証がなければ車を運転できませんから、資格とはあくまでしたい仕事をするための手段とも云えます。

ですから、「資格があるから、ちゃんと仕事出来る」と思うのは錯覚で、仕事内容とは別問題ですよ。

あなたのように異なるプロ仲間であっても、お互いに気づいたことはアドバイスし合う姿勢が必要かと思います。

専門分野が異なると、また、上司、先輩に対しても、気づいても案外口に出さないで陰であれこれ言う人が多いですよ。

それだけに、あなたの勇気に敬意を表しますし、あなたのように当事者の目線からものを云える、真の仕事が出来るプロが増えて欲しいです。 】【

阿部幸泰

（2007年4月27日 記）